

5万分の1地質図幅「相馬中村」

柳沢幸夫¹⁾・山元孝広¹⁾・坂野靖行²⁾・田沢純一³⁾・
吉岡敏和¹⁾・久保和也¹⁾・滝沢文教¹⁾

相馬野馬追いで知られる相馬中村地域は福島県阿武隈山地の北東側、太平洋沿岸に位置しています。ここには年代は先デボン紀・デボン紀から第四紀まで、種類は変成岩、堆積岩、花崗岩、火山岩、段丘堆積物など、非常に多様な地層・岩石が分布し、風光も明美で地質の見学には大変良いところです(第1図)。

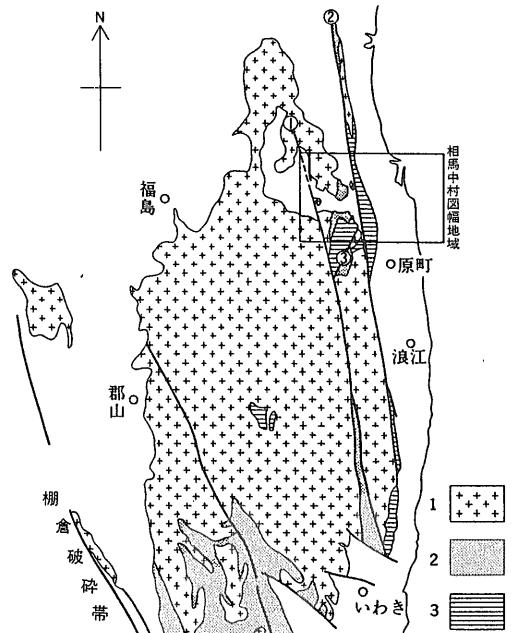
この地域の地質を構成する地層・岩石は、古いものから先デボン紀の山上・松ヶ平変成岩、デボン紀-二疊紀の相馬古生層、ジュラ紀-最下部白亜紀の相馬中村層群、下部白亜紀火山岩類の高倉層、白亜紀の花崗岩類、中新世の塩手層・天明火山岩類・霊山層・大内層・赤柴層、鮮新世の仙台層群、更新世の高位・中位及び低位段丘堆積物、そして沖積層です。この地域では双葉破砕帯と畑川破砕帯という2つの大断層帯が北北西-南南東に走っていて、この地域だけでなく、東北日本の先第三系の地質構造を大きく規制しています。

畑川破砕帯より東側には南部北上山地を構成している古い変成岩や古生層の続が延長して分布しており、南部北上帯に所属しています。この古生層や中生層は貝化石・サンゴ化石・植物化石などを豊富に産出し、年代確定や古生物地理の解明に役立っています。花崗岩類も、この畑川破砕帯を境として、東側は北上山地の花崗岩類と岩質や年代が似ているのに対し、西側のそれは年代も若く、阿武隈帯プロパーの特徴を持っています。すなわち、畑川破砕帯は東北地方の北上帯と阿武隈帯とを分ける大断層なのです。天明火山岩類と霊山層は中新世の玄武岩類で、東北日本の内側に広く分布する新第三紀火山岩類(“グリーンタフ”とも呼ばれる)が外側(東側)に張り出したものです。仙台層

群は海成層と陸成層が入り混じっており、北方の北上川流域から、相馬を通り更に南方まで太平洋沿岸の丘陵を構成しています。双葉断層は顕著な活断層で3,700年前以降に動いたことが明らかになっています。

相馬中村図幅の完成によって仙台より南側の沿岸地帯の5万分の1地質図が常磐地方にまでほぼ連続して出版されたことになりました。魚介類豊富な松川浦と相馬魚港では沢山の安価な宿があり、地質見学に皆さんのお出掛けを待っています。

(文責：滝沢文教)



第1図 阿武隈山地の主要な破砕帯・断層。

①畑川破砕帯, ②双葉破砕帯, ③社地神剪断帯, 1:花崗岩質岩, 2:変成岩類, 3:中・古生代堆積岩類。

1) 地質調査所 地質部
2) 地質調査所 地質標本館
3) 新潟大学理学部地球科学教室

キーワード: 地質図幅, 相馬中村, 阿武隈山地, 山上・松ヶ平変成岩, 相馬古生層, 白亜紀花崗岩類, 天明火山岩類, 霊山層, 仙台層群, 双葉破砕帯, 畑川破砕帯